

◎ヒトラーが「ユダヤ人排除」打ち出した署名書簡、米で展示へ

【CNN, 06/08/2011】ニューヨーク（CNN） ナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）の約20年前、ヒトラーが「ユダヤ人の排除」に初めて言及したとされる署名書簡を、米国のユダヤ系人権団体「サイモン・ウィーゼンタール・センター」がこのほど入手し、ロサンゼルスに運営する「寛容の博物館」に常設展示すると発表した。

同団体の設立者、マービン・ハイアー氏が7日、ニューヨークでの記者会見で書簡を公開した。軍の情報工作員にあてた1919年9月16日付の書簡で、ヒトラーの自筆署名がある。タイプライターで打った4ページの本文には、ユダヤ人排除を政府の「最終目標」にすべきだと書かれている。

ヒトラーは当時30歳で、第一次世界大戦から復員し、軍の宣伝部門に所属していた。上官の指示を受け、工作員に軍としての対ユダヤ方針を説明するために書簡を書いたとみられる。

ヒトラーはこの中で、ユダヤを宗教ではなく「非ドイツ人」の人種と位置付け、政府の力で合法的に排除する制度が必要だと述べている。ハイアー氏によれば、ヒトラーがユダヤ人を名指しして殺害などを指示した正式な署名文書はほかになく、この書簡が「最初で唯一の文書」とされる。ハイアー氏は「ナチス・ドイツの歴史全体の中で最も重要な文書のひとつ」と強調した。

書簡は45年に米兵士がニュルンベルク近郊のナチスの文書保管所で発見し、歴史的資料を扱う民間業者に売り渡していた。一般に公開されるのはこれが初めてだという。

【キーワード】ホロコースト、ユダヤ教、人種、反ユダヤ主義

## 一神教間の 基本的な教えの 相似と相違

## Overview

- 創造論
- 終末論
- 偶像崇拝の禁止

## 【創造論】

- 創造者なる神への信仰
  - 三つの一神教の大前提

## 創造された世界と そこからの離反

- 神による天地創造
- 失樂園の物語
  - 生活・労働の苦悩の原因譚

神はアダムに向かって言われた。

「お前は女の声に従い、取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して土は茨とあざみを生えいでさせる。野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る。土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」 (創世記 3:17-19)

## 人間の罪（原罪）

- ユダヤ教：多様な罪理解
- キリスト教：アウグスティヌス以降、**「原罪」**が支配的に
- イスラーム：原罪を認めない

## 「秩序」からの逸脱

- カインとアベル（創世記4章）
  - 殺人の原因譚
- ノアの洪水（創世記6-9章）
  - 自然災害の原因譚
- バベルの塔（創世記11章）
  - 言語の違いの原因譚

## 創造物語と進化論論争

- チャールズ・ダーウィン『種の起源』（1859年）が論争のきっかけ
- 生命の多様性をどのように説明することができるのか
- 創造論者：神がすべての生命種を創造
- 進化論者：神を前提としない

## 【終末論】

- 終末論の起源
  - 反コスモス的な「移動」（救済・脱出）の欲求
- グノーシス主義において
  - 「この世」→「天上世界」（空間的な移動）
- 黙示文学において
  - 「古い世」→「新しい世」（時間的な移動）

## 終末論の類型

- 個人的終末論
  - 来世、永遠の命
- 宇宙論的終末論
  - 歴史の終わり、最後の審判

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。

（ヨハネ黙示録 21:1-2）

## 抵抗文学としての黙示文学

- ダニエル書（ヘブライ語聖書）
- マカベア時代（前2世紀中頃）のアンティオコス4世エピファネスの迫害下で書かれる。
- ヨハネ黙示録（新約聖書）
  - ローマ帝国の迫害下で書かれる。

## 歴史観

- 一神教の終末論が前提とする歴史観
  - 直線的で一回限りの歴史
  - キリスト教：上昇史観
  - イスラーム：下降史観
- 一神教以外の宗教・文化が前提とする歴史観
  - 循環的な歴史観が多い

## イスラームの終末論

- イスラームはユダヤ教・キリスト教の終末論の基本構造を踏襲
- 言ってやるがよい、「(審判の日には)神様がみんな一緒にお召しになって、立派に黒白をつけてくださる。(アッラーこそ) 真の裁判官、何から何まで御存知のお方」と。(クルアーン34:26)

## 〔終末論 参考文献〕

- 芦名定道・小原克博『キリスト教と現代——終末思想の歴史的展開』世界思想社、2001年。
- 池内 恵『現代アラブの社会思想——終末論とイスラーム主義』講談社、2002年。

## 【偶像崇拝の禁止】

- エジプト、古代オリエント世界における「**神の像**」(god's image)としての王(支配者)
- 像-王の政治神学
- 偶像崇拝の禁止(否定)は、この政治神学の否定に他ならない。
- 神は表現することができない。

あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。(出エジプト記 20:4-5)

墮落して、自分のためにいかなる形の像も造ってはならない。男や女の形も、地上のいかなる獣の形も、空を飛ぶ翼のあるいかなる鳥の形も、地上を這ういかなる動物の形も、地下の海に住むいかなる魚の形も。また目を上げて天を仰ぎ、太陽、月、星といった天の万象を見て、これらに惑わされ、ひれ伏し仕えてはならない。それらは、あなたの神、主が天の下にいるすべての民に分け与えられたものである。しかし主はあなたたちを選び出し、鉄の炉であるエジプトから導き出し、今日のように御自分の嗣業の民とされた。

(申命記 4:16-20)

## 「神の像」としての人間

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。

(創世記 1:26-27)

## 偶像崇拜の禁止が 意味すること

- 神の代理表象（王、教会などの組織）の否定
- 世界の「脱魔術化」（disenchant）